税法実務コース「消費税還付申告」　学習スケジュール

日　程	学　習　テ　ー　マ		内　　容
第１回	第１章	テーマ０　テキストの構成 テーマ１　消費税とは テーマ２　内国消費税とは テーマ３　納税の仕組み	消費税の基本的な仕組みについて確認します。
	第２章	テーマ１　課税対象取引 テーマ２　課税取引・非課税取引 テーマ３　免税取引（輸出取引）	課税取引、非課税取引、免税取引の内容など消費税の課否区分について確認します。
	第３章	テーマ１　納税義務の判定方法 テーマ２　課税事業者の選択	納税義務の判定について確認します。
	第４章	テーマ１　仕入税額控除 テーマ２　課税仕入れ等の判定 テーマ３　課税売上割合 テーマ４　帳簿等の保存 テーマ５　課税売上割合の著しい変動	原則課税による控除対象仕入税額の計算方法について、課税売上割合が著しく変動した場合の調整を含め確認します。
第２回	第５章	テーマ１　簡易課税制度の選択 テーマ２　みなし仕入率	簡易課税制度の仕組みについて確認します。
	第６章	テーマ１　平成22年度改正 テーマ２　平成28年度改正	還付申告に関連する過去の改正点について確認します。
第３回	第７章	テーマ１　事業開始 テーマ２　輸出業者 テーマ３　設備投資や不動産購入	消費税の還付事例について確認します。
	第８章	テーマ１　確定申告書と付表の関係 テーマ２　練習問題	還付申告書の具体的な記載内容について確認します。

■本テキストの内容及び関係法令書類につきましては，平成30年４月１日に確定している法令等に基づき作成しております。

税法実務コース「消費税還付申告」

ＣＯＮＴＥＮＴＳ

第１章　消費税の仕組み

テーマ０　テキストの構成　２

■テキストの構成を知る！

テーマ１　消費税とは　４

■消費税は一言でいえば買い物税！

テーマ２　内国消費税とは　６

■内国消費税とは日本で課税される消費税！

テーマ３　納税の仕組み（国内取引）　８

■消費税を負担するのは消費者！

第２章　取引の分類

テーマ１　課税対象取引　24

■消費税の対象取引は買い物行為！

テーマ２　課税取引・非課税取引　30

■課税取引は無限・非課税取引は限定列挙！

テーマ３　免税取引（輸出取引）　32

■輸出物品等に消費税は課税されない！

第３章　納税義務者

テーマ１　納税義務の判定方法　40

■基準期間における課税売上高の計算は！

テーマ２　課税事業者の選択　50

■還付になる場合には課税事業者を選択！

第４章　控除対象仕入税額（原則課税）

テーマ１　仕入税額控除　64
■支払った消費税は申告書で控除！

テーマ２　課税仕入れ等の判定　76
■課税仕入れ等の確定が重要！

テーマ３　課税売上割合　70
■非課税売上高が大きいときは要注意！

テーマ４　帳簿等の保存　84
■原則課税は帳簿等の保存が必要！

テーマ５　課税売上割合の著しい変動　86
■調整対象固定資産を取得した場合は注意！

第５章　控除対象仕入税額（簡易課税）

テーマ１　簡易課税制度の選択　92
■計算が煩雑な場合等には簡易課税を選択！

テーマ２　みなし仕入率　96
■みなし仕入率を研究する！

第６章　平成22年度28年度改正

テーマ１　平成22年度改正　102
■自動販売機を使用した還付スキーム対策！

テーマ２　平成28年度改正　112
■高額特定資産を購入した場合！

第７章　還付事例

テーマ１　事業開始　120
■仕入や経費が多く、赤字の場合も！

テーマ２　輸出業者　130
■免税売上げに対応する課税仕入れ等は！

テーマ３　設備投資や不動産購入　134
■調整対象固定資産や高額特定資産の購入！

第８章　還付申告書の記載要領

テーマ１　確定申告書と付表の関係　142
■付表は控除対象仕入税額の計算の明細書！

テーマ２　練習問題　152
■還付申告に関する明細書の記入を確認する！

0 テキストの構成

Theme

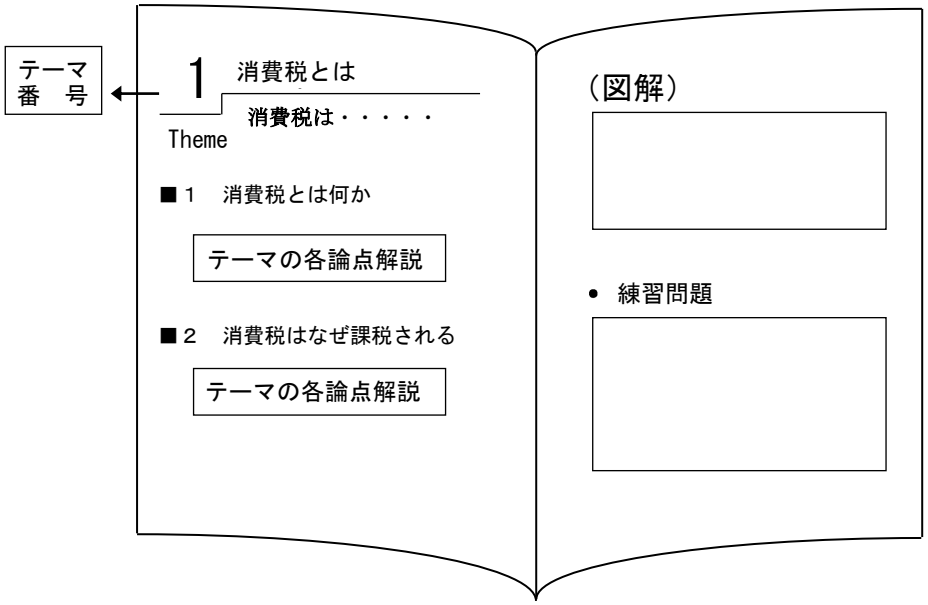
テキストの構成を知る！

■１　消費税還付申告の学習を始めるにあたって

消費税の還付を受けるためには、課税事業者に該当していることや簡易課税制度の適用を受けていない事業者であることなど、いくつかの条件が備わっていなければなりません。

本講座では、法律的な内容を交えながら消費税の還付を受けるための条件や手続きについて解説していきます。

・レジュメの構成



1 消費税とは

Theme

消費税は一言でいえば買い物税！

■１　消費税とは何か

まず、はじめに消費税でいうところの消費とは、皆さんが毎日行う「買い物」と考えてみてください。

百貨店で食料や衣料品を買う。書店で本を買う。すべて普段の「買い物」です。

そして、このような「買い物」の先には「消費」という行為が存在します。ご飯を食べる。服を着る。本を読む。すべて広い意味での「消費行為」と呼ぶことができます。

消費税では、これらの「買い物」を「消費」の前提取引と考えて、「買い物」の時点で一律に８％の税を徴収することにしているのです。

■２　消費税はなぜ課税される

次に、消費税が課税される理由について考えてみましょう。

この理由は単純なもので「買い物」できる人はお金を持っているのだから、購入代金の８％ぐらいは消費税を負担し、財政に協力してください、というものです。

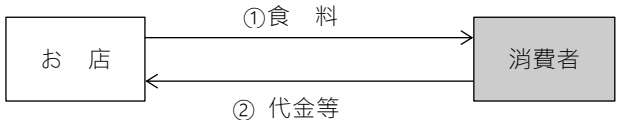
裏を返せば、消費税を負担するのは皆さん消費者一人一人ということにもなるのです。

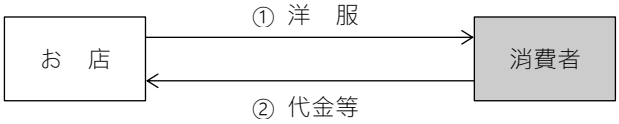
その結果として、平成元年に消費税が導入されてからは、皆さんは財布からお金を出すたびに消費税を負担していることになるわけです。

- **消費の具体的行為**

(1) 商品等の消費･使用

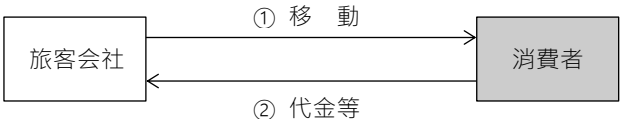
皆さんが食料や衣料品などを購入する行為がこれにあたります。

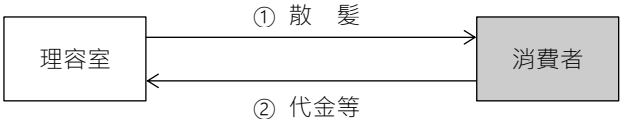




(2) サービスの消費･使用

皆さんが電車に乗ったり、理容室で髪を切ってもらう行為がこれにあたります。





2 内国消費税とは

Theme

内国消費税とは日本で課税される消費税！

■１　内国消費税の対象とされる取引

内国消費税とは、文字どおり日本国内で課される消費税のことをいうのですが、考え方としては次のようになります。

消費税は前述したとおり「消費」の事実に着目して課税が行われるものですから、消費された国で、その国の消費税が課税されるべきです。

具体的に日本で消費が認識される取引については、日本の消費税の対象とされますし、アメリカで消費が認識される取引については、アメリカの消費税の対象とされます。

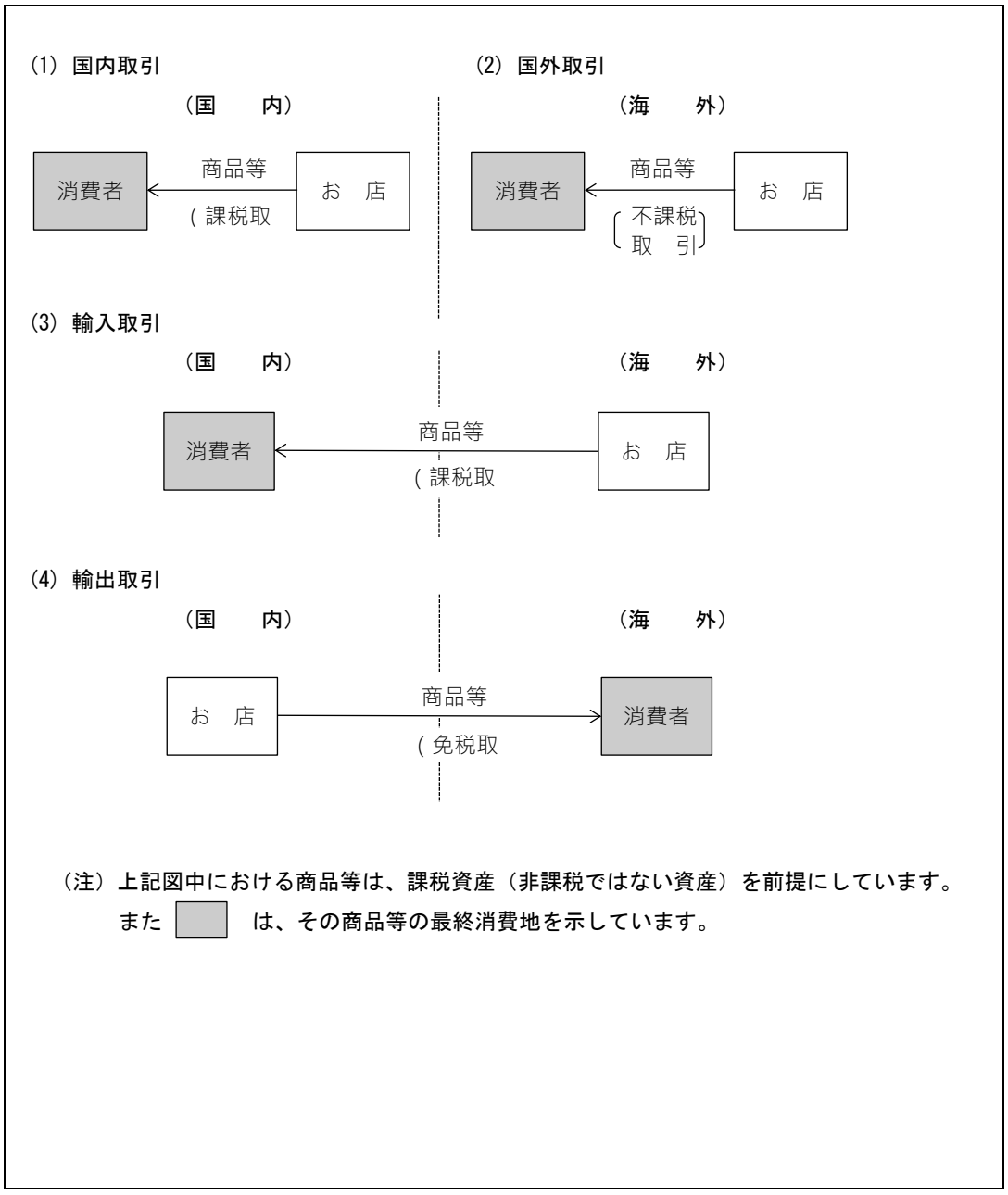
従って、取引全体を(1)国内取引、(2)国外取引、(3)輸入取引、(4)輸出取引の４つに大別した場合、単純に日本の消費税が課税されるのは(1)の国内取引と(3)の輸入取引ということになるわけです（次頁参照）。

なお、本書においては「内国消費税」を以後、「消費税」と記載しています。

■２　輸出取引

輸出取引は、最終的な商品等の消費地が海外であることから、日本の消費税は免除することとされており、消費税では特に「免税取引」と呼んでいます。

- 国際間にわたる取引



（注）上記図中における商品等は、課税資産（非課税ではない資産）を前提にしています。
また　　は、その商品等の最終消費地を示しています。

3 納税の仕組み（国内取引）

Theme

消費税を負担するのは消費者！

■１　消費税の流れ１

消費税は、次頁(1)の図のように事業者の販売する商品等の販売価格に上乗せさせて最終的に商品等を消費する消費者に負担させる形式を採っています。

■２　消費税の流れ２

取引が多段階にわたる場合には、次頁(2)の図のように事業者が商品等の販売を行う都度、販売先から消費税を預かり、実質的に手元に残った消費税を税務署に納める形式を採っています。

つまり同一の商品等に二重三重に税が課税されないように流通の各段階において、各々の事業者が「販売先から預った消費税」から、「購入先に支払った消費税」を控除した残額を納付することにしています。

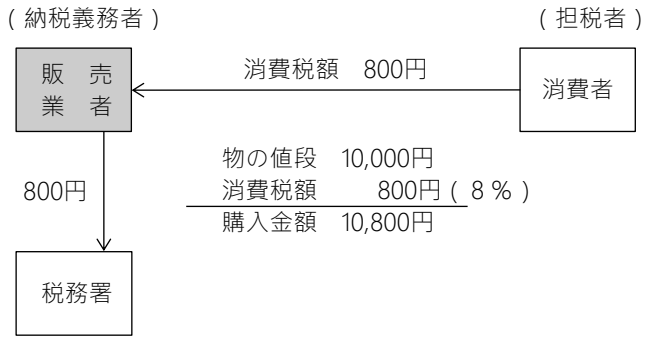
結果、次頁(2)の図において税務署に納付される消費税の累計額は（800円）となり、この負担は実質的に消費者が負っていることになるわけです。

裏を返せば、事業者は販売先から預かった消費税を、消費者に代わり間接的に税務署に納付するだけなので、原則的に消費税を負担することはないわけです。

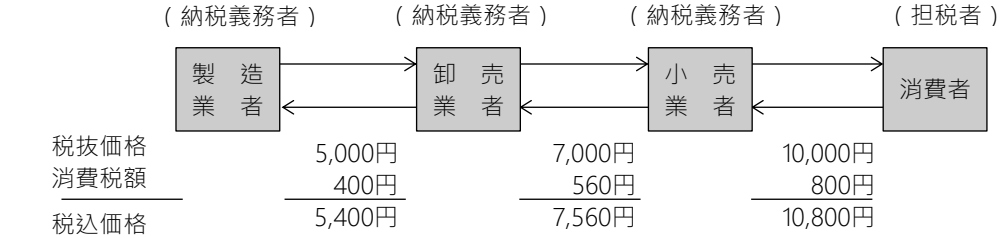
なお、国に納める消費税の税率は6.3%とされていますが、この他に地方自治体に対して1.7%の税率で消費税を納めなければならないため、事業者は6.3%分と1.7%分を合わせた８%相当分を消費者から徴収します。

- **納税の仕組み**

(1) 消費税の流れ１



(2) 消費税の流れ２



（税額の内訳）

預かり金	400円	560円	800円
△ 支払い金	0円	400円	560円
納付税額	400円	160円	240円

400円 ＋ 160円 ＋ 240円 ＝ 800円

（確定申告）　（確定申告）　（確定申告）

税務署　税務署　税務署

税務署へ納付された消費税の累計は
消費者が支払った800円となります。